

## 令和3年度5月 定例市長・市政記者懇談会の結果について

日時 令和3年4月28日(水) 午前11時00分～11時45分  
場所 市役所2階 第1委員会室  
出席 市政記者クラブ9社

### 会見内容

#### 1. 話題提供(2項目)

##### 1. 新型コロナウイルスワクチン接種における接種体制について

- 最初に、新型コロナウイルスワクチン接種における接種体制についてです。
- 新型コロナウイルスワクチンの予防接種につきましては、4月17日に約500人分のワクチンが届き、重症化予防の観点から、4月19日より、高齢者施設に入所されている方への接種が開始されました。
- 4月26日現在では、3施設において245人に1回目の接種を完了したところです。
- 施設入所者以外の高齢者の方には、4月19日以降順次、「接種券(クーポン券)」を発送しております。
- 今後、5月中旬から週約2, 500人分のワクチンが供給される予定ですが、ワクチン接種の開始につきましては、ワクチンの供給量が確定したのち、①80歳以上の方、②72歳～79歳の方、③65歳～71歳の方、の3グループに分け、順次予約を開始する予定です。
- 接種体制については、各医療機関での個別接種と基幹病院や特設会場での集団接種にて実施します。なお、阿寒地区の医療機関は個別接種で、音別地区の医療機関は集団接種を中心に実施いたします。
- 予約受付の開始時期については、あらためて個別に通知する予定ですので、それまでの間、お待ちいただきたいと思います。
- また、65歳未満の接種対象者には、接種体制や高齢者への接種状況を確認しながら、6月中旬ごろに接種券を送付できるように準備を進めているところです。

##### 2. クラウドファンディング型ふるさと納税の募集について

「いのちをつむぐ!コハクくんに安全で快適な住まいを!」

- 続いて、クラウドファンディング型ふるさと納税の募集についてです。
- クラウドファンディング型ふるさと納税とは、自治体の課題解決のために具体的な使い道を「プロジェクト」として示し、その趣旨・目的に共感していただける方からふるさと納税のご寄附を募集する仕組みであります。
- 今回募集を予定しているプロジェクトにつきましては、釧路市動物園で飼育し

ているアミメキリンの仔「コハク」のために新しい獣舎を整備すべく、「いのちをつむぐ！コハクくんに安全で快適な住まいを！」と題して寄附を募集するものであります。

- このたびの寄附目標金額は、3,000万円と考えております。
- 本プロジェクトについては、ふるさと納税ポータルサイト「ふるさとチョイスガバメントクラウドファンディング」にて、本日4月28日（水）から7月26日（月）まで募集しております。
- 本プロジェクトの趣旨にご賛同いただき、多くの皆様からの温かいご支援をお待ちしております。

## 2. 質疑要旨

(質問)

- ・ アミメキリン「コハク」の獣舎の整備について、クラウドファンディングで集めることにした狙いを教えてください。

(市長)

- ・ こちらにつきましては、ふるさと納税の新しい部長職を作りながら進めている一環であると考えていただきたいと思います。ふるさと納税の取り組みの中で、地元の産品をしっかりとPRしていきながら成果に結びつけていくことが重要なことであると考えております。その中で、「ふるさとチョイス ガバメントクラウドファンディング」の実績等を見ますと、色々なプロジェクト単位で達成率等が出ております。「まちづくり」「子どもの教育」「観光PR」といったものがありますが、その中でも「動物」が、一番高い7割弱の達成率であるという背景があります。釧路市動物園の「コハク」を含むアミメキリンについては、市民団体チャイルズエンジェルさんから、親キリンである「スカイ」を贈っていただいたという市民の皆さんの力をいただきながら成し得たストーリー等があることから、こちらを紹介しながら、募集を行っていくものであります。もちろん、目的はキリンの獣舎の整備であります、「ガバメントクラウドファンディング」の部分の一番高い達成率である「動物」に焦点を合わせて行っていくものです。

(質問)

- ・ ふるさとチョイスの動物関連の取り組みが、注目度・人気も高く、ふるさと納税であると、地元の産品のPRにも繋がるので、そのような効果も期待できるからということでしょうか。

(市長)

- ・ ジャンルごとの達成率をみますと「動物」が67.7%ということで、非常に高いものとなっております。このことから「ふるさとチョイスガバメントクラウドファンディング」を活用し、キリンの獣舎の整備について、チャレンジしてみるという形であります。

(質問)

- ・ 目標金額が3,000万円ということですが、これで建設費用が全て賄えるということでしょうか。

(動物園長)

- ・ 全体額は、約7,000万円で、その一部として充てる形となっております。

(質問)

- ・ 新しく建てる獣舎の場所について教えてください。

(動物園長)

- ・ 場所は、今現在、使われていない旧象舎を改修し、活用することになっております。

(質問)

- ・ コハクは怪我をしていたと思いますが、その関連で獣舎を建てるのでしょうか。コハクの命をつむぐということは、どのような意味でしょうか。

(動物園長)

- ・ 怪我との関連は、直接的にはありません。釧路市動物園の基本計画の中で、命をつむぐというものがあり、意味合いといたしましては、コハクの親のスカイというキリンが、市民団体チャイルズエンジェルさんから贈っていただいたもので、そのスカイに待望の赤ちゃんが生まれたということで、命をつむいでいくというタイトルを付けさせていただいております。

(質問)

- ・ キリンが増えたことから、新しい獣舎が必要になったということでしょうか。今、キリンは何頭いるのですか。

(動物園長)

- ・ 釧路市動物園には3頭おります。全国の動物園で、キリンの移動を行っておりますが、コハクにつきましては、当初は他の動物園に移動する予定であったのですが、キリンのオスが全国的に多く、需要が少ないということで、釧路市動物園で終生飼育することに決まり、新たな獣舎が必要になったということです。

(市長)

- ・ 基本的には、全国の中で繁殖等、連携を取りながら様々なことを行っているところですが、今は、オスとメスのバランス等を踏まえていった中で、まだコハクが小さい時に移動することが難しい状況になったということがあります。そこで、本市で環境を整備していきながら飼育を続けていきたいと思いますという形で、既存の獣舎にプラスとなる整備を行っていき、あわせて、そこを市民の方々にしっかりと見てもらうような環境作りも行っていくような趣旨になると思っております。

(質問)

- ・ 新しい獣舎が出来れば、3頭とも移動するのでしょうか。

(動物園長)

- ・ こちらは、あくまでコハク専用の獣舎です。

(質問)

- ・ 現在、ワクチン接種の協力が得られたのは、39のクリニックと6の基幹病院ということですが、協力を得られた医療機関としては、こちらが最大値と考えていいのでしょうか。

(市長)

- ・ 基本的には、この数ぐらいになると思います。札幌市についても、200万人の人口で、約480の医療機関で実施することになっております。釧路市では、医療機関にご協力をいただき、最大限のお力をいただいていると思います。

(質問)

- ・ 週4、500人の接種で、6週を1クールとして13、500人ということですと、市ホームページに掲載しているスケジュール表を見た時に、3つの高齢者

の年齢別グループは、いずれも6月から始まる形に見えるのですが、変更は今後もありつつも、各グループの接種開始時期をずらしながら実施していくというイメージでしょうか。

(市長)

- ・ こちらは、グループごとに接種開始時期がずれることを表すものです。この例示がスタート時期ということではなく、接種体制の能力から、どうしても1グループ6週間かかるということです。6月からスタートした場合には、10月中旬になるというイメージで受けとっていただければと思います。

(質問)

- ・ 国の方は、7月末までに接種を終えますという宣言をしておりますが、現場にとってみると、現実的なのでしょうか。

(市長)

- ・ 平時と有事とでどのような形をとっていくのかということに繋がると思います。基本的に私どもは、平時の体制でワクチン接種をしっかりと進めていくということで、医師会の皆様方、病院とも相談しながら、できるだけ早く接種を完了していこうと進めてきたところです。接種を終える期限を決めていくことになりまして、東京、大阪における国の大規模接種会場の設置についても発表されており、これは有事という形で進めていくことになると考えておまして、例えば、歯科医師の先生方へご依頼するような件も出てくると思います。我々はまず、病院、クリニックでの接種ということで進めてきましたが、歯科医師が接種に携わることが可能になると、歯科医師の先生方ともお話をしていくことになると思います。

つまり、平時の中で進めていくことと、有事の中で進めていくということは、実施の方法が変わってくるものと考えております。私どもは、今までは平時体制の中で、どのようにいち早く実施できるかということで、医師会の皆様方を含め、関係者と様々な相談をしながら進めてきたところです。1週間で4,500人ぐらいのオーダーで、我々が組んでいたものが、6月からスタートをして2カ月で行うためには、1週間で10,000人という形になりますので、倍の体制ということになります。現状では極めて難しいということは、ご理解いただきたいと思いますので、今後、どのようにしたら、それが可能となるのかという議論になると思います。札幌市も我々と同じような体制であったと思いましたので、それらの手法等を調査しているところであります。

(質問)

- ・ 手法については他の自治体も参考にしつつも、絶対的に1週間に10,000人の接種をしなければ国の目標を達成できません。東京等の大都市圏では、大規模接種会場を設置するのかもしれませんが、地方都市の釧路としては、どのような支援が必要であると思いますか。

(市長)

- ・ やはり、今は、接種できる体制として、医師の先生方の人員です。また、副反応も踏まえた後の対応等がある訳ですので、そこをどのようにするのが課題であると思います。会場を確保することは、公的な施設がありますので可能です。問題は、そのような状況で、ワクチンを接種する医師、看護師等の人員になります。今は、そのような体制でなければ、ワクチンを接種できません。歯科医師会が、どのようにするのかということもあります。今までは、平時の中でどれだけのワクチンを接種できるかご協力をいただいた中で、最大限どれだけのことができるか、少しでも多く接種していただきたいということで、医師会の皆様方もそのような形で進めており、週4,500人は何としても接種できるように行って

いきましょうと構築してきたところです。接種終了の期限が決まると、量が確定してくる訳ですから、そのためには1週間に10,000人に接種する体制をとらないといけない訳ですので、その体制をどのようにするのか、色々と相談等が必要であると考えております。

(質問)

- ・ 道東道の阿寒インターチェンジから釧路西インターチェンジの開通時期が令和6年度と公表され、釧路市郊外まで繋がる見通しがたったと思うのですが、時期が公表されたことについての受け止めについて教えてください。

(市長)

- ・ 本当に喜ばしいニュースでありました。北海道はスケールメリットがあると言われておりましたが、現代社会においては時間が重要で、スケールメリットが逆にスケールデメリットになっているという大きな問題があったと受け止めております。そのような部分も高速道路で繋いでいくということは、まさに北海道のスケールメリットを活かせる基本の道路であると考えており、そこが開通するということは、本当に感慨深いものがあります。1957年に、この計画が出されたもので、まさに先人の努力があり、あわせて、新直轄方式の仕組みができてから、地元の先生方のお力をいただいて進めているところで、本当にありがたい気持ちで一杯です。他にも空港のインターチェンジのこともあります。これは、地域活性化インターチェンジということですので、北海道が行っていくこととなります。このような制度も、あわせて要請しながら進めていこうと考えております。また、実際は、根室まで繋いでいくことが重要であり、尾幌―糸魚沢間が本格的に着手していく形になります。そして、別保―尾幌間に向けては、計画段階評価を、昨年から早く載せていただきたいと要請をしているところです。ミッシングリンクの解消については、高速道路が繋がって初めて活用に繋がるものと考えており、さらには時間短縮へ繋がってまいりますので、目に見えて成果が上がってくるものと思っております。これらを活用する情報発信を行っていただけると考えております。

(質問)

- ・ 釧路市郊外まで繋がることで、経済面と防災面については、どのような効果が期待されますか。

(市長)

- ・ 阿寒までのインターチェンジが出来た時には、当初予定されていた以上に通行量が増えました。あの時は、需要があるからインフラがあるのではなくて、高速道路というインフラを作ることによって、需要を作りあげたということが、しっかりと証明されたところです。これは、繋がることにより、人の移動が活発になってくるものと考えておりますので、プラス要素が極めて大きいものと考えております。また、防災という観点では、これから6月にも津波浸水エリアが北海道で発表されるということです。そちらにつきましては、外環状道路を含めて高速道路は、津波浸水の高さよりも上の位置となるだろうと思っております。こちらは、まだ発表されておりませんが、前回の北海道のシミュレーションでも、そこまで達しておりませんから大丈夫であろうということで、まさにそこが逃げる場所となりますし、あわせて、空港まで繋がることになっていることが、非常にプラスの効果が出てくると思います。他には、物流があります。例えば、備蓄等の部分です。今までの議論では、それぞれの自治体の中で、どのぐらい備蓄をしていくかということですが、北海道の取り組みの中でもお話ししているのは、それ

それぞれの自治体が進めていることではありますが、こういうものこそ、広域で確保していくことが重要であるということです。私ども市が持っているもの、釧路管内、根室管内、十勝管内といったエリア全体の中で受けるもの、札幌も含めて道内全域が一斉に被災するということはないと思いますので、そのような時に、全体の中で命を救っていく形も可能であるといったお話をさせていただき、釧路・根室管内で、どのぐらいの備蓄をしているのかについて押さえながら進めているところです。このようなところもスムーズに流れていく形になると思っておりますので、経済・防災の両面で大きな効果があると思っております。

(質問)

- ・ 防災の面では、おそらく浸水エリアに入らないということですが、避難等にも関わってくるということでしょうか。

(市長)

- ・ 釧路中央インターチェンジの所になります。そこを前提といたしまして、地域活性化インターチェンジであります。インターチェンジをフルにさせていただき、あわせて柳橋通については、当初、片側1車線であったところを2車線に、市の方で整備を行いまして、ここに避難できる形の確保をしているところです。

(質問)

- ・ ユースホステルの廃止について、1997（平成9）年に休止をして、再開も模索していたということですが、長い間休止していた当該施設を、今、この時期に廃止する狙いについて教えてください。

(市長)

- ・ 当時、休止状況の中で、再開することも検討の中になりましたが、震災の影響や修繕費のことも踏まえていった時に、なかなか難しいということで、2008（平成20）年3月に旅館業の停止届を提出しております。今回、こちらの活用についてのお話もいただいた中で、解体も含めた売却を検討するということです。

(質問)

- ・ それは、何かのスケジュールに沿って、2008（平成20）年3月に休止し、今年、廃止になるということでしょうか。

(観光振興室長)

- ・ 2008（平成20）年の3月に、当時の情勢を鑑みて、旅館業の停止届を一旦出ささせていただいたところです。最近であれば、民泊施設等が出てきておりますが、当時はそのような施設もなかったもので、再開の可能性を残してきましたが、情勢を見計らって、このたびのタイミングに廃止に至った経過となっております。

(質問)

- ・ 修繕費等のバランスを考えた時に、廃止した方がいいと判断したのが、今ということですか。

(市長)

- ・ 2008（平成20）年の段階で旅館業を停止していたということは、まさしくそのような形であったと考えております。これまで所有しておりましたが、このたび、ぜひ、そこを活用していきたいと提案等をいただき、廃止を進めていく形になっているものです。

(質問)

- ・ 日本製紙の跡地利用について、その後の進展は、どのようになっているのでしょうか。また、社員向けの相談窓口の利用状況について、教えてください。

(市長)

- ・ 日本製紙の本社と、その後も事務的な連絡等を取っているところです。跡地利用については、使用する部分と使用しない部分の仕分け等は、もう少し時間がかかると、会社の方からお話に来ている状況です。整理がつき次第、しっかり示していただけるものと考えているところです。相談窓口につきましては、釧路総合振興局並びに釧路市の両方に設置しているところですが、現状、相談件数はないと聞いているところです。

(質問)

- ・ 一番、直近のやりとりはいつ頃でしたか。

(産業推進室長)

- ・ 本市の担当も代わったことから、ご挨拶も兼ねて4月21日にリモート会議を行いました。

(質問)

- ・ 8月での工場停止は決まっているということですが、5～8月まで4カ月しかありません。今後は何をしていくのでしょうか。

(市長)

- ・ 3月1日の本社訪問では、会社として8月の停止は決定事項であることを伺っております。私どもは、工場跡地について、停止後から考えるということは、非常に問題であるというお話をさせていただきました。そのままにしておくことが、まちづくりにとっての大きなマイナスであるということです。そのため、どのような形をとっていくのかということで、まずは8月以降、80ヘクタールの中で、使う所と使わない所について示していただきたいということです。今後、どのような所が活用できるのかということに繋がってまいりますので、白紙の状況で停機を迎えないように、お話をさせていただいたところです。可能な限り急いで、使う所と使わない所の仕分け・区分けを、私どもに示していきたいということを、3月1日に、日本製紙からお話をいただいているところですので、ここの観点で、今は進めております。